勝山大用水（築 約300年）

場所・施設概要

- 場所　勝山市
- 水源　九頭竜川
- 延長　10,300m
  開水路と管水路の複合
- 受益農地面積　180ha
- 流量　1.9 ㎥/s

勝山市昭和町付近

歴 史

今から約３００年前、江戸時代(享保のころ)に、飲料水や田畑のかんがい用水の確保のため、九頭竜川に入口を作り(現在の下荒井橋付近)、水を引いたのが勝山大用水の起源です。水路沿いの村々が協力して水を導き、その運用や維持保全にあたっては、関係の村々で事あるたびに幾度も調整を繰り返して決めたため、立合用水とも言われています。

昭和３２年には、同じ取水口から勝山市の北東部にも水路が引かれ、新用水、旧用水と称されています。

参考：奥越の土地改良 40 年のあゆみ(奥越土地改良事業促進協議会)

勝山市片瀬町付近

地域での役割

享保のころより、田畑のかんがいだけでなく、飲料水、防火用水、浄化用水、消雪用水として人々の生活に密接に役立てられていました。今も３００年間変わることなく、勝山市の人々に豊かな実りと潤いをもたらせています。

勝山市若猪野付近

管理状況

享保のころは、関係の村々が共同で用水を維持していました。年間約 1,000 人が携わったと云われています。現在は、営農と地域環境のための重要な用水として、勝山市が維持管理しています。

用水の状況